

特定非営利活動法人 JHP・学校をつくる会

平成 21 (2009) 年度

事業計画書



2009 年度（平成 21 年度）の事業方針

当会は 2009 年 9 月に当会設立 16 年を迎えます。今年度は、以下の 11 方針に基づき各種事業を実施し、その具体的成果を支援者に報告します。

- (1) 「社会の発展及び自立は基礎教育の充実から」という考えに基づき、極度の貧困に苦しみ、教育施設の未整備なカンボジア等の開発途上国における 学校建設を積極的に進め、『国連ミレニアム開発目標』にある、普遍的初等教育の達成に寄与します。
- (2) 教育支援活動として、音楽・美術・衛生教育等に必要の人材育成に力を入れます。特に、音楽や美術がカンボジアの正式な教科として認められるようにカリキュラムや教材の整備を進めるなど、積極的に活動を進めます。
- (3) 子どもの健全育成を図る教育支援活動に必要な楽器、教材等の支援物資を積極的に集めます。
- (4) 教育支援活動の一環として、生活と就学が困難で養護が必要な海外の子どもや、日本で研修や留学を希望する学生などを支援するとともに、日本国内での広報啓発活動を通じて支援者の拡大に努めます。
- (5) カンボジアの他にも教育支援の必要性があるネパールやラオス等の国について、教育支援の可能性を調査し必要な支援を行うため調査団を派遣します。
- (6) 当会及び協力団体の支援先にボランティアを派遣し「日本人の顔の見える援助」を行い、同時にそれを通じて次世代を担う日本の若者の「地球市民教育」を実践します。
- (7) 他団体やボランティアと情報交換を密にしながら、国内外の災害時には、平時から募集する災害時の初動資金を元に、メンバーの派遣や後方支援などの貢献をします。
- (8) 当会の財産である、共働学習経験や国際協力・多文化理解・共生などの豊富な実践的な専門知識を活かして、4 期目の『国際ボランティア・カレッジ』を継続運営し、「国際ボランティア市民」としてグローバル社会で生きることを志す人々に、国際 NGO にふさわしい学びの場を提供します。
- (9) NGO ネットワークに参加し、人権の擁護又は平和の推進、教育の質向上を図る活動や提言を行います。
- (10) 機関紙やホームページ、報告会等を通じて活動実績を広報すると共に、ボランティア及び地域サポーターとの協力で支援者の輪を更に大きくします。
- (11) 各種募金活動、認定 NPO 法人の積極的な宣伝を行い支援者の拡大を図ります。また、事業の透明性の確保、個人情報保護や危機管理の徹底、運営能力の向上に努めることにより対外的な信頼を深め、より安定した運営基盤を築きます。

2009 年度（平成 21 年度）事業計画書

事業名	事業内容	実地時期	実施地域	活動内容と目標
1 ・ 学校建設	1) 小・中学校建設	年度内	カンボジア各地域	調査に基づき候補校を決定し、特に遠隔地の優先度の高い小学校、教室数の足りない中学校から 20 棟の教育施設（トイレ、井戸、備品含む）を建設する。その中で、機能と環境を考慮した建設を目指す。
			カンボジア以外	カンボジア以外（ネパール、ラオス等）の国を調査し、可能性があれば実施する。
	2) 教員養成学校建設	年度内	カンボジア	調査に基づき、建設の必要があれば上記 20 棟の一部として、学生寮や多目的教室棟を建設する。具体的には、バットバン県小学校教員養成学校の校舎 1 棟を建設する。
	3) 専門家派遣	年 1 回	カンボジア	丈夫で長期間使用可能な施設建設の為に、一級建築士の青野達司氏を派遣する。
	4) 既建設校の視察（フォローアップ）	年度内	カンボジア各地域	既建設校のフォローアップを行う。特に、建設後 10 年を超える校舎、中途支援校舎（途中から当会が引き継いで建設した校舎）については、重点的に確認を行う。また、教室以外の施設（多目的施設、講堂、図書室、職員室等）については利用状況を確認する。特に修理が必要な施設は補修を行う。
5) 継続支援	随時	カンボジア	学校運営に必要な備品、教材、図書などのニーズを調査し、継続支援を行う。その際に、学校予算（PB: Prepaid Budget）の活用状況も併せて確認する。	
2 ・ 教育支援	1) 音楽教育	随時	カンボジア各地域	<u>音楽授業実施状況の調査</u> トレーニング既卒業者の学校を中心に音楽授業の実施状況を調査する。
		随時	プノンペン市	<u>音楽教材の作成・配布</u> クメール曲生徒用教科書の改訂・印刷 2007 年度に発行した第 2 版を改訂し、より多くの曲を掲載する。 外国曲生徒用教科書印刷 2008 年度に作成したものを 2700 部印刷する。 音楽教材 小学校教員養成学校のカリキュラム作成と連動し、授業の質を高めるためのカセット教材を作成する。
		随時	カンボジア各地域	<u>楽器・教材配付</u> 既存モデルの上級トレーニングに参加するプレイベン県 18 校に対して、足踏みオルガン 1 台、鍵盤ハーモニカ 50 台、ソプラノリコーダー 50 本、カスタネット 10 個、タンバリン 1 個、鈴 1 個、木琴 1 台、教科書（クメール曲編、外国曲編）50 冊をそれぞれ配付する。 新モデルのバットバン県 25 校に対して、教科書（クメール曲編、外国曲編）100 冊、ソプラノリコーダー 100 本を配付する。 音楽プロジェクト参加校全校にカセットプレーヤー 1 台、鍵盤ハーモニカ 10 台を配付する。 楽器メンテナンス指導の徹底・部品の現地調達の可能性を探る。 必要に応じて、以前配付した学校へ追加配付する。
		4～7 月	プノンペン市	<u>小学校教員養成学校の音楽教育モデル作成</u> 小学校教員養成学校の音楽授業時間数を考慮し、全国的な普及のためのカリキュラム案を作成する。また、その案をバットバン県コダルドンティウ中学校周辺の教員を対象としたトレーニング（新モデル）で試用する。

		4~7月 (4日間) 8月 (10日間)	プレイベン県	現職教員対象トレーニング(既存モデル上級) カンボジアの子どもたちへの情操教育普及のために、集中的に音楽教師の育成を行う。講師は当会契約スタッフ。本年は上級のみで最終年となる。 ・日数：フォローアップ4日間、講習10日間の計14日間。 ・対象：プレイベン県小中学校教師など33名。
		9月 (10日間)	バタンバン県	現職教員対象トレーニング(新モデル) 音楽授業が小中学校を通じて継続的に行われるように、地域を限定してトレーニングを行う。講師は当会契約スタッフのほか、熊本県国際課の研修制度で来日経験のある2名。 ・対象：コダルドンティウ中学校周辺の小中学校25校の教員、教育局スタッフなど計150名。 尚、プレイベン県、スタントレン県、クラチェ県の教員養成学校の音楽教員が退職したため、新たな教員トレーニングのため、本トレーニングに招待する。
		6月 (5日間) 1月 (5日間)	プノンペン市	教員養成学校(TTC)教員対象フォローアップ TTC全校で音楽授業が行われ、生徒が配属先の学校で授業に必要な技術を身につけられるように、6月と1月に各5日間講習を行う。参加者は20校から30名。その際に小学校教員養成学校の音楽教育作成モデルに関するワークショップを実施する。
		9~10月	カンボジア各地域	現職教員対象フォローアップトレーニング 当会の音楽ワークショップ既卒者の小中学校教員、教員養成学校教師、教育局スタッフ(現時点で171名)に対し、音楽知識・技術の維持と向上を目的とした講習を行う。講師は当会契約講師。各地域2日間実施する。
		11~12月	カンボジア各地域	合唱普及活動 昨年度行った音楽教員への指導の成果を測り、改善のための助言ができるような機会をつくる。対象はプロジェクト参加校全校。講師は日本人専門家又は当会契約スタッフ。
		9月 (10日間) 10月 (5日間)	プノンペン市	音楽指導員(地域インストラクター)育成 2006~2009年度にトレーニングを修了した、コンポンスプー県、シアヌークビル市、タケオ県、コンボンチュナン県、プレイベン県の小中学校教員15名を対象に、音楽教育の普及に貢献できる人材を育成する。 地域トレーニング開始準備 昨年度のトレーニング修了者の地域を対象に、次年度以降各地域で普及活動を行っていくためのニーズ調査を行う。 熊本県海外技術研修員他への推薦者の候補を探す。
		1~3月	カンボジア各地域	第6回音楽コンテスト 音楽支援のフォローアップとその成果確認の場として開催する。同時に、子どもたちの意欲向上にも繋げる。参加地域は以下の10地域。プノンペン市、カンダール県、コンポンスプー県、タケオ県、コンボンチュナン県、プレイベン県(新規)、バタンバン郡(新規)。対象は、小学校(116校)、中学校(23校)、教員養成学校(18校)を予定。出場校が多い県は郡単位で予選を行い、地域に根ざしたコンテストを目指す。各県予選での優秀校による決勝大会を3月にプノンペン市で開催する。

2
・
教育支援

		通年	プノンペン市	<p>マーチングバンドプログラム</p> <p>練習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワットプノン中学校：当会が贈呈した音楽棟を活用し、講師5名が週6日指導を行う。ユニフォーム新調（30着） ・コラップ 小学校：週1回（木）3時間練習する。ユニフォーム新調（10着） ・サクラクバルチュロイ小学校：週1回（木）3時間練習する。 <p>指導者派遣</p> <p>長期間にわたり、バンド指導者、生徒の指導ができる講師派遣を検討する。</p> <p>パレード</p> <p>年2回程度、プノンペン市内でマーチングパレードを企画する。</p> <p>第2回青少年によるコンサート実施</p> <p>2009年8月末頃、全マーチングバンドの演奏を主にしたコンサートを開催する。その他、アンコールコースオーケストラとの合同演奏なども行う。</p> <p>校内発表会</p> <p>教育局のイベントに招待される機会の少ない、コラップ小学校、サクラクバルチュロイ小学校のマーチングバンドに校内発表会の機会を提供し、保護者や地域の方々に披露する。</p> <p>海外公演</p> <p>普段の練習のモチベーションを高め、カンボジア国内では見ることのできない、レベルの高いマーチングバンドの演奏を見る機会を提供するために、マレーシアで毎年8月に開催されている、World Marching Band Competition 2009へ、ワットプノン中学校マーチングバンドクラブを出場させる。尚、派遣に際して、ノースウエスト航空のマイルを有効利用する。</p>
2) 美術教育		5、6月	カンボジア各地域	<p>参加校追跡調査・画材配付</p> <p>事前のアンケートに基づき、学校の教育環境作りや授業の様子をモニタリングし、問題点等を把握する。同時に学校側や関係部署にも働きかけ、問題の改善を図る。</p> <p>TTCでの美術教育をさらに調査し、より学校のニーズに合わせたトレーニングが行えるようにする。</p> <p>昨年度配付した画材一式の使用状況を調査する。参加校の授業実施状況、画材使用状況を見ながら、必要な画材を割り出す。</p>
		通年	カンボジア各地域	<p>教材作成</p> <p>美術テキスト（従来版）の増刷、配付、あるいは新改訂版テキストを印刷する。（2000部）</p>
		4～7月	2市4県	<p>TTC生徒対象美術ワークショップ</p> <p>全国のTTCで美術教育が行われる体制を構築し、生徒が卒業後配属先の学校で美術指導ができるように講習を行う。実施地域は7地域。トレーニング期間は2～4日間。</p>
		4～12月	プノンペン市	<p>小学校教員養成学校美術教育テキスト案作成</p> <p>日本人専門家の協力を得て、当会契約スタッフがテキスト案を完成させ、教育省がテキストとして採用することを目指す。同時に、従来の当会美術テキストの改訂を行う。</p>
		12月（10日間）	プノンペン市	<p>TTC教員対象美術トレーニング</p> <p>全国のTTC25校の教員をプノンペンに招待し、トレーニングを行う。講師は日本人専門家、JHP契約スタッフ。</p>

		8月～3月 (開催は 2010年1～ 3月)	カンボジア 各地域	<p>第8回絵画展</p> <p>当会美術プロジェクトの中心的活動として位置付け、絵画プロジェクト参加校生徒及び TTC 学生の絵画授業への意欲向上と絵画教育の普及を目指す。</p> <p>開催地域は7地域(プノンペン市、カンダール県、コンボンスプー県、タケオ県、シアヌークビル市、コンボンチャム県、コンボンチュナン県)。参加校は、小学校75校、教員養成学校7校を予定。</p> <p>また、同絵画展には、日本の小中学生の絵画作品を展示し、両国の国際交流にも繋げる。</p> <p>表彰式はプノンペンの第6回音楽コンテスト決勝にあわせて開催し、受賞者対象スタディツアーを行う。</p> <p>尚、昨年度からの改善点は以下の通り。</p> <p>低学年への絵画教育を促すため、低学年部門を設け、各校より低学年(1～3年生)20作品、高学年(4～6年生)20作品を出展してもらう。</p> <p>各学校内での絵画展実施(校内展覧会)を促進する。</p> <p>審査委員会に絵画教員を招待し、評価のポイントや他の学校の作品を鑑賞する学びの場を提供する。</p>
		5月 (10日間)	カンボジア 各地域	<p>専門家派遣</p> <p>美術教育普及に向けた各種助言を得るために、日本人専門家(画家)を2回派遣する。第1回は、美術教育テキスト案の確認、画材調査、小学校・教員養成学校の絵画授業視察・デモンストレーション等を実施。第2回は、絵画展審査委員会、TTC教員対象美術トレーニングでの指導補助を予定している。</p>
3) 衛生教育		通年	カンボジア 各地域	<p>トイレ、井戸建設と平行して衛生指導、学校美化、ごみ処理など清掃指導を行う。同時に、焼却炉の設置について検討する。</p> <p>当会が建設した井戸の水質検査(大腸菌、砒素)を徹底し、支援者に報告する。同時に、井戸のモニタリング方法を整備する。</p> <p>当会作成の衛生教本を配付する。年間配付数は約1500冊</p> <p>学校建設前の最終協議時にJHPスタッフより衛生教本を使用した指導し、建設チェック、建設後チェックの際に確認。</p>
4) 援助物資募集 及び海外輸送		年数回	日本～ カンボジア	<p>各種事業に必要な教材・備品(楽器、文房具、机、椅子、自転車、ランドセル)の募集を行い、年数回カンボジアに輸送し配付する。</p>
5) 研修生・ 留学生招聘		年数回	カンボジア～ 日本	<p>熊本県国際課の研修制度に対して、ナム・ネット氏(コンボンチャム県チュレイタソー小学校教員・33歳男性)を推薦する。採用されれば、熊本県芦北町にて研修が可能となる。同時に、これまで招聘した研修生の情報を収集し、熊本県国際課、芦北町に報告する。</p> <p>カンボジアの子どもに職業訓練や研修機会を提供するために受け入れ団体を探す。具体的には、CCHの子ども2名に美容師になるための研修を受けさせる。</p> <p>カンボジアの学生に留学の機会を提供するために、当会が情報収集、橋渡しを行う。</p>
6) 孤児院等支 援		通年	プノンペン市	<p>2002年度に当会が建設し、7年目(第2期支援の1年目)を迎える孤児院を運営するローカルNGOのCCH(日本語名:幸せの子どもの家)に対して、運営費、教材、生活用品等を継続的に支援すると同時に、安定的に支援するための基金を継続支援する。また、支援を目的のカレンダーを作成、販売する。</p>

3 ボランティア派遣	1) カンボジア	年2回 (8、3月) 通年	カンボジア	カンボジアに年2回、約45名のボランティアを派遣し、遊具建設等を通じて地球的視野を持つ人材を育成する。8月隊は8月2～29日(26泊28日)の期間派遣する。 企業や団体のボランティア活動を受入れ、遊具建設等の活動を通じて社会貢献活動の普及を行う。
	2) 小山内美江子 国際ボランティア・カレッジ	通年	国内及びカンボジア	4期目に入る「国際ボランティア・カレッジ」を継続運営し、グローバル社会で生きることを志す人々に、国際NGOにふさわしい新しい学びの場を提供する。講座の内容は以下の通り。 講義：9月～2月中旬まで約70回。 カンボジア研修：受講生の研修の場として、2月下旬から3月下旬まで約4週間派遣する。内容は、遊具建設、NGO視察、各種講義、遺跡研修など。派遣者目標は20名。
	3) その他	未定	未定	学校建設、教育支援事業に関連して、関係団体等の要請や情報を得ながら、必要とされる国、地域にボランティアを派遣する。特に、学校建設に関連して、植林(植樹)のニーズを調査する。
	4) 緊急派遣	不定期	国内外	国内外の災害への支援活動及び募金を実施する。緊急度の高い教育支援対象国に調査団を派遣する。
4 啓蒙活動(広報啓発)	1) チャリティイベント	年2～3回	東京都内と近郊	当会主催イベント 当会の活動を宣伝し、各種非営利事業の活動費を募るチャリティイベント、コンサートを企画実施する。具体的には、天満敦子氏のヴァイオリンコンサートなどを実施する。 他組織主催イベントへの参加、協力 当会支援の目的で行われる他組織のイベントに対して、求められる範囲の協力をを行う。
	2) スタディツアー	年1回	カンボジア	当会活動の現場を紹介するスタディツアーを年1回実施し啓発活動を行う。
	3) コーディネート	年数回	カンボジア	当会事業の見学や交流会を希望する会員をはじめとする企業、団体、個人を受入れ、当会の活動を積極的に広める。
	4) 機関紙発行	年6回	東京(事務局)	支援者への報告として、見やすく分かりやすい会報を発行する。今年度は年4回を予定。 CCH(幸せの子どもの家)サポーターに対して、CCH便り(年2回)、プロフィール集(年1回)を発行する。
	5) 記録集発行	年1回 (12月)	東京(事務局)	2008年度の全活動及び特集記事をまとめた冊子を編集、発行する。
	6) ホームページ	通時	東京(事務局)	新規リニューアルされたホームページを定期的に管理更新し、現場の生の情報、正確で密度の高い情報を提供する。作業はボランティアが運営できる体制を整える。 サイト運営の問題や課題について随時検討し、次回リニューアルに向けた準備を行う。
	7) 啓発諸活動	年間通時	事務局及び国内各地	海外ボランティア派遣希望者を対象にした説明会を全国数ヶ所で数回開催する。 海外ボランティア派遣体験者による活動報告会を年5回(東京2回、北海道1回ほか)開催する。 活動の内容を紹介するオリエンテーションを実施する(月1～2回) 各地のイベントに参加し、活動を積極的に宣伝する。 日本各地の組織、団体からの依頼に応じて、当会活動や国際協力に関する情報を紹介する講義を積極的に行う。
	8) 募金箱運動	通年	国内各地	500mlの空パックを再利用したりサイクル募金箱運動を広く協力者に呼びかける。 各種サイズの募金箱を整備し、長期的に置いてもらえる場所を確保する。
	9) 地域ネットワーク	年間通時	事務局及び国内各所	当会の会員、協力者、活動隊派遣者の中から各地域の啓蒙事業の核となる「地域サポーター」を集め、支援者拡大のためのネットワークを確立する。今年度は、事務局とサポーターの連絡を密にして、「地域に根ざした活動」を展開する。

5・運営基盤拡充

1) 財源確保	年間通時	東京 (事務局)	<p>当会が「認定 NPO 法人」であることの広報を積極的に行い、新たな支援者を集める。</p> <p>学校建設、教育支援事業の支援者を集め、活動内容に対応した報告を徹底する。</p> <p>他団体が行うインターネットを活用した寄付サイトの設立に協力する。</p> <p>新規会員を増やし、会員継続率をあげる。同時に、会費や寄付の自動引き落としシステムを構築する。</p> <p>各種助成金の申請を積極的に行う。</p> <p>特定非営利活動展開の為に各種募金活動を行う。</p> <p>書き損じハガキ、未使用切手、未使用テレホンカード集めによる通信費削減をはかり、学校建設事業に活用する。</p> <p>絵画プロジェクトについて「1校で1年間絵画教育を行うための教材支援」を呼びかける。</p>
2) 協力団体提携	年間通時	東京 (事務局)	<p>プロジェクト及び組織運営の幅を広げるために、以下の通り他団体との協力関係を深める。</p> <p>J E N</p> <p>アフリカへ毛布をおくる運動（毛布収集、現地派遣・モニタリングに協力する。）</p> <p>NPO 事業サポートセンター</p> <p>地雷廃絶日本キャンペーン (JCBL)</p> <p>カンボジア市民フォーラム</p> <p>教育協力 NGO ネットワーク (JNNE)</p> <p>国際協力 NGO センター (JANIC)</p> <p>北海道 NGO ネットワーク</p> <p>東京都港区・港区国際交流協会</p> <p>江東区（海外向け支援物資）</p> <p>みなとボランティアセンター</p> <p>独立行政法人国際協力機構 (JICA)</p> <p>港区防災ネット</p> <p>災害時の緊急募金を実施。支援先は随時検討する。</p>
3) 各種会議	年間通時	東京 (事務局)	<p>会員総会（年1回）</p> <p>理事会（定例に月1回）</p> <p>運営協議会（週1回）</p> <p>事務局スタッフミーティング（週1回）</p> <p>マンスリーミーティング（月1回）</p> <p>その他必要に応じて会議を実施。</p>
4) 事業評価	年間通時	東京 (事務局)	<p>昨年度実施した事業評価の提言内容についてモニタリングを行う。</p>
5) 運営管理	年間随時	東京 (事務局)	<p>事務局運営管理能力を強化する。特に、国際協力 NGO センター (JANIC) が普及している「アカウントビリティ・セルフチェック 2008」の諸条項にそって運営状況を確認する。</p> <p>当会の歴史、実績に関する資料や写真の整理・保存を計画的に進める。</p> <p>当会の活動推進に必要なボランティア（特に定期ボランティア）を充実させる。</p>
6) 職員教育	年間随時	東京 (事務局)	<p>当会としての職員教育の方法と内容を整備する。</p> <p>外務省が行う「長期スタディプログラム」の情報を収集し、希望する職員がいれば積極的に派遣する。</p>
7) 事務所移転	5月	東京	<p>東京事務所（本部）移転の準備並びに新事務所の環境整備、対外的な周知徹底を図る。</p>